

---

# ひぐらし ~ After School Days ~ TIPS集

シンシヨク

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ひぐらし〜After School Days〜 TIPS集

### 【コード】

N0552I

### 【作者名】

シンシヨク

### 【あらすじ】

昭和58年からの平凡な記録・・・その名の通り、「ひぐらし〜After School Days」のTIPS集です。

「型」とは？

羽

「もう、このカケラ紡ぎの場所に行くことはないのですか？」

梨

「こなくても、いいように努力するのよ。平和な世界を獲得したんだから」

カケラの間とも、お別れになるのかも知れない。最後のカケラ、「お子様ランチの旗」。これで惨劇の起こらない世界になった。ここを使うこともなくなる。

梨

「これから、過こしていく日々を

「型」と呼ぶことにする。」

羽入がキョトンとした顔で聞いていた

羽

「「型」？何なのですかそれは」

梨

「いままでの世界を一つ一つ本のように考えて私はそれぞれに名前と「編」というのをつけてきた。それは、カケラで少しずつ変わるものだった。でも、これからは・・・」

羽

「つまり、僕たちにも何が起こるか分からない。変えることができ

ない、型にはまった世界ということなのですか？」

梨

「そう、私たちはこれからたとえイヤなことがあっても世界をリセ  
ットせずに受け入れて、生きていかなければならない」

羽

「・・・頑張るのです。」

梨

「あなたもよ、羽入。」

## 昭和62年・おはぎ殺し編

圭「腹へったー」

今日は魅音がバイトで沙都子と梨花ちゃんが休みだった、基本的に俺達は2、3人部活にこなければやる気をなくすので、今日の部活は無しになった。

そして、俺がどうして、家に帰ってくるなり、こんなことを嘆いているのかといえば今朝お袋が

母「圭ー、今日ちょっと母さん体調わるいから昼はコンビニ弁当で我慢してくれない」

と、言っていたので昼にコンビニ弁当を食べたわけなのだか、何せ、育ち盛りの為足りなかったというわけだ。

という分けで今、冷蔵庫やら棚を調べて食べ物を探しているところだ

圭「まったく、こういつ時買い置きとかあればいいのに」

家は得にいらないうきに買い置きがあるものだ。豚骨生姜味みたいなのが。

圭「どうせなら、甘いものがないな・・・ん？」

俺は、冷蔵庫の奥に入っていた、透明のパックを見つけた。

圭「なんだ？おっ、おはぎだ！ラッキー」

俺は、中に入っていたあんこのおはぎを何も確認せず一気にたいたげた。

圭「ふー、美味かった」

そのあと、俺は、満腹になったので夕食まで寝ることにした。次の朝どうなるかもしらずに・・・

「現壊し」編のカケラ

梨「このカケラは何？」

羽「それは現壊しというカケラなのです」

梨「こんなのがあったなんて知らなかった。」

羽「それは、詩音がまだ聖ルチーア学園にいた頃の話なので梨花が知らなくても仕方ないのです。」

梨「暇潰しみたいに、ちょっと変わってるわね。この世界を今の平和な世界に紡いでみましょう。」

羽「あう、大丈夫なですか？梨花。」

梨「大丈夫なように、仲間といっしょに頑張るのよ。」

ガチャ

梨「これでいいわ。さて、世界はどう変わるのかしら。」

## 古手家・秘伝書物・「怪片・総封庫」

古手の一族のなかには、稀にいくつもの世界を行ききするものがある。

そのいくつかの世界を過ごし、次の世界に行くまでの世界を一つの破片カケラとし、本来その破片はとある場所でしか形を成さない。しかし時として、破片が形を成し現実に降り注ぐことがある。

現実に現れた破片の形はたびたび姿を変える。

仮に破片を読めば、脳に各世界の映像が流れこみ、世界感覚が分からなくなる恐れがあるので、速やかに回収が必要である。

回収した破片は、再び落ちることのないよう、一つの特異な箱に封印する。

その箱を『怪片・総封庫』と呼称する。

## 昭和62年・千年の旅路

目が覚めると脇には田のある道にたっていた。

？「ここは・・・もしかして鬼ヶ淵村？、しかし・・・よく分からぬ建物がある」

目を見開いてみた先には、白くとてつもなく大きな家らしきものがあつた。もつと近くによつてよく見ることにした。

？「ふわ〜。大きい〜。ちよつと触つて・・・」

白い建物に触れたとき不思議な感覚がした。

？「なに？これは、木できておらぬのか。しかし藁とも違つ。不思議。」

そのとき、道の方から少し大きな音が聞こえてきた。

ブロロロロー

目の前の道を、見たことのないくらいの速さで白い箱のようなものが通りすぎて行った。

？「・・・なぬ、今は、追いかけよう。」

不思議なことばかりある。しばらく、この鬼ヶ淵村かどうか分からない村を歩いてみよう。・・・そういえば

？「名前が、思い出せぬ・・・何か・・・私の髪は紫は帯びてい  
る・・・よし、しばらく、私の名前は『むらさき』で決まり」

紫「さっきの、箱はどこに行った？」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0552i/>

---

ひぐらし～After School Days～ TIPS集

2010年10月9日11時49分発行